

細田三喜夫

ほそた・みきお

誠之館教師(漢文)

経歴

生:明治41年(1908年)7月12日、茨城県水戸市仲町生まれ

没:昭和61年(1986年)、享年78歳

昭和2年(1927年)4月1日	18歳	水戸高等学校文科甲類入学
昭和5年(1930年)3月15日	21歳	水戸高等学校文科甲類卒業
昭和5年(1930年)4月1日	21歳	東京帝国大学文学部支那哲学支那文学科入学
昭和8年(1933年)3月31日	24歳	東京帝国大学文学部支那哲学支那文学科卒業
昭和8年(1933年)3月31日	24歳	茨城県立水戸農学校教諭
昭和11年(1936年)3月31日	27歳	茨城県立水街道中学校教諭
昭和15年(1940年)3月31日	31歳	広島県立福山誠之館中学校教諭
昭和18年(1943年)1月28日	34歳	静岡県へ出向
昭和18年(1943年)1月31日	34歳	福山誠之館中学校教諭を辞任
昭和18年(1943年)1月31日	34歳	静岡県師範学校教諭
昭和61年(1986年)	77歳	長崎大学教育学部名誉教授
昭和61年(1986年)	—	勲三等旭日中綬章

恩師 細田三喜夫先生 佐藤道夫(昭和18年卒)

私が五年生になって担任は漢文の細田三喜夫先生であった。
「僕は細田三喜夫で名の通り、大学卒業、結婚、就職と三つの喜びを同時に持った…」担任就任のごあいさつの中で、今も記憶している先生の言葉である。
細田先生は水戸市生まれで、東大中国文学科を卒業して誠之館に赴任して来られたのである。
ハンサムで、臍脂のネクタイと、笑顔の真っ白い歯が印象的であった。

細田先生には、漢文の解釈から背景の中国歴史や出てくる人物の解説など広汎な知識を教わった。

又先生は詩吟も堪能で授業中に朗詠をせがんで聞かせてもらうのも楽しみであった。

特に、文天祥の正気歌や、垓下の囲み四面楚歌の中で英傑項羽の慨嘆、

『力、山を抜き氣世を蓋う
時、利あらず、騅、逝かず
騅、逝かず、奈何すべき
虞や虞や、若を奈何せん』

は得意中の得意で、音吐朗々名調子に魅せられて生徒たちは、宋に殉じた文天祥の堅い節操、英傑項羽と虞姫の悲壮な哀歓に随分と胸を熱くしたものである。

余談になるが、先生は『漢文故事解釈』を研究社から出版して、試験のたびにこの中から一問出題されるので悩まされもしたが、後年、手ほどきを受けた漢文故事の知識が、自戒として又人生の糧として役だっていることは、一に細田先生に教わったお陰である。

やがて3月、先生が静岡師範へ栄転されることを知った。

卒業式後教室で、先生が王維作の友を送る絶句を吟詠された。

『渭城の朝雨輕塵をうるほす
客舎青々柳色新たなり
君に勧む更に尽くせ一杯の酒
西の方陽関を出づれば故人無からん
西の方陽関を出づれば故人無からん
無からん』

と、一際感のこもった朗詠であった。

担任した生徒を送り、自分たちも誠之館を去る。

先生の想いは生徒たちの想いであった。

卒業式の余韻と共に別れを惜しむ先生と生徒であった。

そしてあくる日、級友らと引っ越しの手伝いにかこつけて先生の家におしかけたが、先生は一家をあげて大歓迎され、無礼講の一日、懐かしい思いでとなった。

しばらくして静岡の先生に音信したところ、返信は「…然たる教授ぶり…」に始まる先生らしい漢文調の自画自賛した活躍の文面であった。

その後は身の不精から無音に打ち過ごしてしまった。

昭和61年(1986年)、細田三喜夫先生は長崎大学教育学部名誉教授で、8月に最後の著書となった中国故事物語(講談社)を出版され、秋には勲三等旭日中綬章を授与されるなど、益々ご活躍であったが、この年、78歳の生涯を閉じられている。

因に自著略歴に、広島県立福山誠之館中学校教諭の肩書を必ず入れておられるが、誠之館時代は細田先生にとっても忘れ得ない郷愁であったに違いない。謹んで先生のご冥福をお祈りして擱筆する。(出典1)

著 書

氏 名	名 称	発行所	発行日	コメント
細田三喜夫 著	『漢文故事小事典』	研究社学生文庫	昭和35年	—
細田三喜夫 編	『中国故事たとえ辞典』	東京堂出版	昭和47年	—
細田三喜夫 編	『中国名詩鑑賞辞典』	東京堂出版	昭和52年	—
細田三喜夫 編	『中国故事物語事典 悠久の歴史へとい ぎなう』	三省堂	昭和59年	—
細田三喜夫 編	『中国故事物語事典』	角川書店	昭和59年	—
細田三喜夫 著	『中国故事物語』	講談社学術文庫	昭和61年	—
細田三喜夫 著	『中国故事たとえ事典(新装普及版)』	東京堂出版	平成3年	—

出典1:『誠之館同窓会報(第9号)』、22頁、福山誠之館同窓会編刊、2002年5月1日

2004年11月1日更新:経歴●2005年4月8日更新:出典●2006年6月30日更新:タイトル●2007年7月19日更新:経歴●2009年12月10日更新:経歴、著書●